

3月21日(水)・22日(木)・23日(金)

S級シリーズ

熊本けいりん ニュース

電投番号 87#

第12回 スポニチ杯争奪戦

展望

■ 出場予定選手 ■

Table of race participants for the S class (54名). Columns include race number, name, age, birthplace, and recent performance.

A級 (54名)

Table of race participants for the A class (54名). Columns include race number, name, age, birthplace, and recent performance.

■ 出場予定選手 ■

Table of race participants for the S class (54名). Columns include race number, name, age, birthplace, and recent performance.

予備 (2名)

Table of reserve participants (2名). Columns include race number, name, age, birthplace, and recent performance.

◎早朝前売実施中 7:20

Table of early sale information (早朝前売実施中 7:20). Includes phone numbers and details for various race types.

◎開催の有無のお問い合わせ (096)383-5215

次回開催案内

Table of upcoming race dates and locations (次回開催案内). Includes dates like 3月24日 and 3月29日.

◀S級展望▶

23年度最後の開催となる、スポーツニッポン社杯。ダービーに出場を果たせなかった選手の中から選ばれた、54名全員が魅力たっぷりの個性派揃い。V候補筆頭は、腰ヘルニアの手術から奇跡的に復活した松岡健介(兵庫)で、流行の4回転ギアにしてパワー倍増。対抗格は、正月の立川記念決勝で3位に入り、競輪祭出場を決めた岡村潤(静岡)。先行より捲りの方が威力があるレーサー。後を山田幸司・内藤香久の神楽川コンビが固めてくれるのは有利。関東からは、宗景祐樹(栃木)、稲村好将(群馬)の筋金入りのマーカー。中部は、その気になれば捲りがある笠松信行(愛知)。四国は、ダッシュ力抜群の自力型、大西祐(香川)には復調小川圭二(徳島)。九州は、復活が待たれる小岩大介(大分)が孤軍奮闘。その他の1班は、2ヶ月間の自粛期間は練習漬けだった、地元戦に強い島田竜二(熊本)に、落車で外傷性クモ膜下出血の大怪我から立ち直った梶山裕次郎(福岡)。茨城のホープ芦沢辰弘(茨城)、平塚に冬期移動している自力型、中村敏之輔(北海道)。2班には、岐阜輪界の新星、松岡篤哉は、先守だけでなく捲りにも著しい成長。2回目の失格で2班に甘んじている佐々木雄一(福島)は、一昨年の平オールスターで決勝に乗った実力・鋭気。今年、待望の初優勝を遂げた池田憲昭(香川)は捲り主戦。先行より捲りが強力なのは、考えて走るのが好きな片奇雄己(静岡)。捲りに磨きをかけている宿口陽一(埼玉)は、間違いなく予選を突破して、準決勝でも人気を集めそうな調子に実力。大怪我から立ち直りつつある堀政美(茨城)に酒井耕介(京都)の痛烈差し。実績の出口眞浩(神奈川)、眞原健一(神奈川)、松岡彰洋(三重)、舘泰守(愛知)、鮎田博文(三重)は予選突破の有力候補。先行、捲りの自力で目立ちたいのは、宮本憲(福岡)、荒沢貴史(北海道)、中川貴徳(栃木)、佐藤清之(千葉)、奥平充男(京都)、戸伏康夫(岡山)。

◀A級展望▶

ロンドン五輪を目指すナショナルチームの一員として、海外遠征、合宿で鍛えられている河端朋之(岡山)が、昨年末の平塚グランプリシリーズで開催されたナショナルカップの準Vから本格化、今年は、連戦連勝で優勝を量産、先行より自慢のスピードを生かした捲りは絶品。昨年7月の当地戦逃げ切り初Vで波に乗ったのは、上田隼(岐阜)、年末まで7Vの荒稼ぎで、来期のS級は決定的。アマレスのチャンピオンからアテューダしたのは黒川茂高(滋賀)。名伯楽、渡辺一貴(58期)の指導で急上昇。昨年8月当地戦での初Vをキッカケに、来期の初S級をほぼ決める。格闘家としても十二分に通用する巨体から繰り出すパワーは豪快無比。この3人の主導権争いは、S級戦より興味津々。地元勢は、初Vで波に乗る大ホープ森山智徳が登場。番手は気力優先のファイター、園田鉄兵。玄人受けする味がある追い込み型、正田敏(愛知)は、降級後はA級の水が合っていたのが優勝の連続。

◀主力選手の横顔▶

- ◎松岡 健介(兵庫) 33才 87期生
一昨年の12月にかねてから予定していた腰の手術を断行、3ヶ月間のリハビリの末、4月から復帰してからは順調。強烈な先行・捲りを武器に好走していたが、ここに来て成績が安定しないのは不安。それでも能力は高い。4.00のギアから繰り出す先行、捲りは強力そのもの。
◎岡村 潤(静岡) 30才 86期生
可愛い顔をしているが、早くも三十路。デビュー以来、先行捲りの自力を通しての、これを生き様にしてから。記念の後出は多いが、優勝はゼロ、しかしF1は常時V争いを演じている安定感は抜群。今年は年頭の立川記念で快走、いきなり優出果たしての3着は実力か。
◎小岩 大介(大分) 27才 90期生
腰痛に悩まされ大好きな練習をやれず昨年は苦しんだが、現在はしっかりした治療で、痛みは出ないとのこと。大分県は国東半島の先、姫島の出身。競輪選手になるため、日出陽谷校に通い、長距離専門に活躍、今年は昔を思い出してか意識して捲りを出しているのは将来を考えてのこと。
◎笠松 信幸(愛知) 32才 84期生
デビュー時は、現在の深谷知広クラスのパワーで大暴れしたが、いつのまにか、小さくまとまったが、完全なマーカーに転向するのは抵抗があるのか、コメントは何時も自力自在。今年は体調面の不安がありスタートダッシュに失敗したが、大好きな熊本バンクに備えたのであれば・・・。
◎大西 祐(香川) 25才 91期生
国立高専の建築科で首席だった頭脳優秀な文武両道の好青年。趣味の自転車でも頭角を現し、勉強は年を取ってもやれるが、競輪選手は、今しかない決断。武器は、天性のダッシュを生かした捲りだが、最近はやや上げて早駆けに挑戦中。
◎松岡 篤哉(岐阜) 29才 97期生
陸上競技でがんばっていたが、陸上出身の谷田泰平や、古くは山田祐仁の伝で、山口富生の弟子になり勇躍デビュー。97期のルーキーチャンピオンに輝いたハイパワーは、弟の竹内雄作より練習では上との評判、先行、捲りの威力は強烈無比、狙うは初優勝。
◎佐々木 雄一(福島) 32才 83期生
一昨年は、地元平のオールスターで決勝に乗り山崎芳仁・佐藤慎太郎の後を固めた実力者。前々期は不運な失格が2回もあって今期は2班に甘んじているが、1月大宮記念で佐藤友和の捲りを案に抜いたのが、実力であり調子。予選スタートはハンディだが、そこは能力でカバーする。
◎宗景 祐樹(栃木) 36才 84期生
中村淳・飯島則之に誘われて、鉄人・伊藤公人(埼玉、40期)の門をたたいて、マーク術を磨き、落車・失格を恐れぬファイターとして人気を集めていたが、落車や事故点が影響してか、スランプが約半年続いているのは心配。脱出しての参加であればVの一角。
◎小川 圭二(徳島) 41才 68期生
熊本は3日制の記念で、小嶋敬二を相手に完全Vを飾ったこともあるレーサー。一時期は予選でも取りこぼすまで低迷していたが、それではダメだと一念発起したのか、今年以前の脚力を取り戻し好走続き。大ギヤにも慣れたのか、決め脚の鋭さが甦ったのは事実。